

新型コロナウイルス感染症が私たちの生活に与えた影響は大きく、元のような生活に戻ることができているかどうかは不透明です。

文化的なイベントも例外ではありません。歌舞伎や文楽、落語、講談など伝統的な芝居や演芸の公演は、内容の変更や中止が相次ぎました。私たちがとって身近な地域の伝統行事や民俗芸能にも影響が出ています。

厳しい状況に追い打ち

全国的な傾向として人口減少や少子高齢化により、地域に伝わる民俗芸能の保存と継承は困難になっています。新型コロナウイルスの感染拡大で披露の場を失ったり、大人数が集まっていた練習ができなくなったりしていることが、この状況をさらに悪化させています。

今年3月7日に開催された初午祭はつごまさい例年20以上の馬と2千人の踊り手が

郷土の扉

The gateway to local history

コロナ禍と伝統行事

「馬踊り」を奉納しますが、今年は始良市加治木町木田の御神馬ごしんまのみの奉納でした。

他にも行事の中止や規模縮小などで、市内各地域に残る民俗芸能の披露ができない団体が数多くありました。

保存・継承に奮闘する団体

現在霧島市では、約30の団体がそれぞれ地域に伝わる民俗芸能の保存と継承に努めています。コロナ禍での活動や行事開催の判断に苦慮しながらも、感染対策を実施して開催できた団体もありました。

3月1日に稲の豊作を願って、国分清水あのみなみの天御中主神社で奉納される田の神舞。女性だけが演じる珍しいものです。保存会は行事を開催するか悩みましたが、当時は市内の新型コロナウイルスの新規感染者も少なかったこ

とから、見学者を減らし、会場に消毒液を準備するなどの対策をとって開催しました。

4月第一日曜に福山町福沢ふじざの新原にいげにある早馬神社で奉納される鎌踊り。家畜の繁殖や農作物の豊作を願うものです。例年は県外に住む出身者な



清水田の神舞



いげ原
新原鎌踊り保存会

ども参加することがあるようですが、新型コロナウイルスの影響で参加を自粛。それでも地域の民俗芸能を保存・継承するため、地域の熟練者や中高生が参加して奉納しました。

民俗芸能を取り巻く状況はとても厳しいですが、地域への愛着などからどうにか残していこうと奮闘する人々がいいます。今回は一部の団体を紹介しましたが、他の団体の皆さんも保存・継承のために努力を続けています。

新型コロナウイルスが終息すれば、皆さんが気兼ねなく観覧できるようにになります。そのときを心待ちに、ぜひ多くの人の応援をお願いします。

(文責 坂元)